

## 縄文スギ樹勢回復措置説明会開催

保全センターでは、十月七日、屋久島営林署会議室において環境庁・鹿児島県等関係機関に對して、縄文スギの現状と今後の対策を含めた説明会を、樹木医を交えて実施しました。

この説明会は、平成九年度縄文スギに対して実施した、古城・瀬戸両樹木医による樹勢診断の結果が報告書（洋上アルプス四〇号に掲載）にまとめ、現状と今後の対策を含め、関係行政機関等へ周知していただくために実施したものです。

当日は、二〇名を超える参加者に対して、保全センターから縄文スギの現状について報告書を基に説明した後、樹木医による専門的な観点からの補足説明を行いました。次に、この樹勢診断の結果



を踏まえ、今年度実施予定の縄文スギ樹勢回復措置についての説明を行い、その必要性と緊急性についての理解を求めました。今年度は、試験的に一部土壌改良等を実施することにし

## 自然休養林情報

### 台風通過後の点検整備実施

10月中旬の台風10号により、自然休養林（ヤクスギランド・白谷雲水峽）にも少なからず被害が出ました。

保全センターでは、定期的に点検を行っていますが、今回の台風では枯れ木が遊歩道に倒れたり棧道の敷石が流されていたため、職員による風倒木の除去や遊歩道の手すり・棧道の補修を実施しました。

また、木道の張板・ボルトの緩み等については入念に点検し、いつでも安全で快適に利用できるよう心掛けています。

なお、既設の木道や石張道は、雨天日等表面が濡れたときは滑りやすいので、歩行には十分な注意が必要です。

（遊歩道に落ちた倒木）



いま、自然休養林内では、ナナカマドが色付き始め、屋久島でも秋の気配を感じます。

ており、詳しい説明を裏面に掲載しています。

### 登山道沿いに

### 仮設トイレ設置検討

### （山岳部利用対策協議会開催）

十月七日、第三回協議会が文化研修センターで開催され、今年の夏休み期間中は好天が続く例年になく登山客が多く、それに伴いゴミの増加や交通量が多かったこと等の報告がありました。

また、交通機関へ要請した荒川口での駐車場整理については、島内五社の協力があり、指導の大きさや交通量の多さ等の現状が理解され、大成功だったとの報告がありました。

来年度も基本的に本年度事業を継続し、新たな取り組みとしては、登山道の汚物対策について仮設トイレを設置できないか、各機関が前向きに検討することを確認しました。

### 司法研修員生が

### 縄文スギ周辺での清掃登山を体験

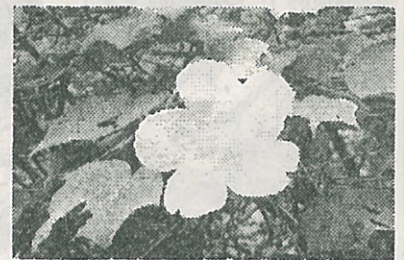
十月二〇日、広島地方検察庁司法研修員生七名と当センター職員及び森林官が、高塚小屋周辺と縄文スギ展望デッキの清掃作業を行いました。

当日研修員生は、慣れない手つきで小屋周辺に埋められた空き缶やビニール等約六〇kgのゴミを分別毎に拾い、汗

を流していました。（高塚小屋）今回の作業で、他の登山者へのマナー啓発につながったことも、彼らが今後司法行政に携わる上での貴重な体験となったようです。



## 屋久島の植物



サキシマフヨウ（あおい科）

亜熱帯の九州南部以南に分布する落葉低木で、高さ二〜四mに達し、葉裏に白い毛が密生するやや広い葉を持つ。屋久島では、家庭栽培のフヨウとの間に種間雑種がある。秋〜冬の花の少ない時期に、道路沿いで白色または薄いピンク色の美しい花を咲かせ、目を楽しませてくれる。

### 専門学校実習生等が環境保全学ぶ

十月六日から二週間程度、東京の東洋工学専門学校建築エコロジー科（自然環境学習等）屋久島実習がありました。当センターも十月八日会議室及び白谷雲水峽で、センターの業務紹介や環境保全の取組等について説明しました。

この他十月は、屋久町小学校五年生を対象としたヤクスギランドでの森林教室や、琉球

### 国有林での「取材・撮影」は、入林申請が必要ですよ

一般に開放されている登山道や、自然休養林・風景林等の国有林においても、個人的利用以外の目的での取材・撮影には、国有林野入林申請が必要ですよ。

最近、屋久島関連のニュースがテレビ等マスコミで取り上げられていますが、中には無許可で撮影された映像等も見受けられます。

営林署・保全センターでは、屋久島の貴重な森林を保護管理するために、入林状況を把握する必要があります。事前に入林申請をしていただくようお願いいたします。



# 平成10年度縄文スギ樹勢回復措置計画

## 1. 目的

縄文スギ周辺においては、過去に多くの登山者がその周辺にまで踏み込んだ事と、写真撮影の支障になるからと周囲の樹木が借り払われたことにより、表土が流出し根が露出してしまった、その保護対策として木片等の敷き込みが実施され、土砂の流出は減少したものの、周辺の植生は思うように回復しなかった。

その原因を調査するため、平成9年度に樹木医による樹勢診断を実施したところ、表土層に多量の未分解性の有機物が残り、ヘドロ状態に変化しどぶくさい臭いを発していることが報告された。

このことは、縄文スギの衰退を早め、倒木の危険性も考えられる、樹勢回復のためには早急にヘドロ状態の未分解性有機物の改善や、過湿を軽減するための排水対策等の樹勢回復措置を講じることが緊急の課題である。

そこで、林野庁では平成10年度世界自然遺産保全緊急対策事業として、縄文スギに対する樹勢回復措置を実施することとした。

なお、今年度は施工のための測量及び周辺植生と土壌の調査、また試験的に一部土壌改良等を実施する。

## 2. 施工内容

### ①基本図面作成

縄文スギ周辺の詳細な測量を実施し、施行区域を明確にする。(平面図、縦断面図、横断面図作成)

### ②周辺植生調査

縄文スギ前面裸地部の植生回復を最重点課題として位置付け、縄文スギ周辺の自然植生を調査し、最適環境の方向付けを行う。

### ③試験的施行地(モデル地区)の設定

#### I. 有効土層域の改善と過湿軽減の排水対策

A0層の確保を図るための木片の撤去、及び透水性を促進し過湿状態を改善するために土嚢袋の撤去を行い、粘質性土壌の通気性を改善し酸素の供給量を増加するためD0パイプの設置を行う。

#### II. 階段状編柵工の設置

木片及び土嚢袋の撤去に伴う、雨水などによる表土の流失を防止するため編柵工を設置する。

#### III. 土壌改良工

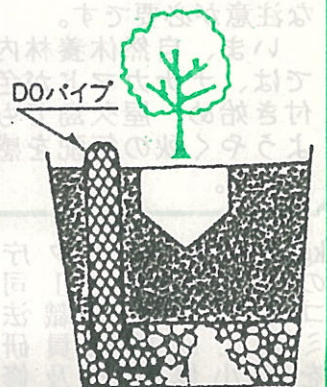
排水対策後の土壌を活性化し、養分供給を促進するため、天然堆肥を主体とする土壌改良材の混合による周辺土壌の改良を実施する。

土壌改良剤(チップ炭・ヒューマス活植源・フミロン単剤・木酢液)

### D0パイプとは

穴あき空洞パイプと碎石養分部分とを集約した物で、単に排水するだけでなく、植物の根に必要な酸素と有効水は常に保持しながら、且つ滞水してもその水をより長く腐らせない働きがあります。

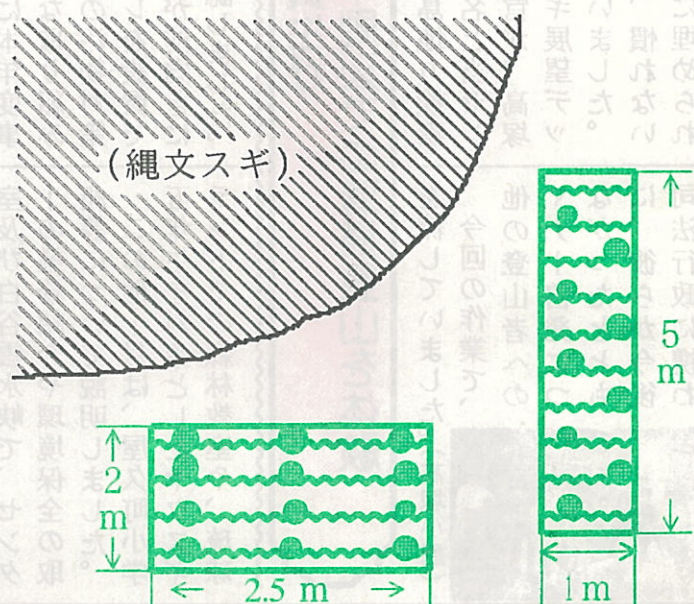
※D0とは溶存酸素(Dissolved Oxygen)を表す頭文字です。



## 縄文スギ現況写真



## 試験的モデル地区



- : 土壌改良区
- : 編柵工
- : D0パイプ

## 展望デッキ